

平成24年度 森プロ事業実績：飛騨高山森プロ

(平成25年3月末現在)

		H20～23年度		H24年度			5力年	
		計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		348	235	0	30	—		348
作業道(m)		20,000	25,301	5,000	856	17%		25,000
間伐等	面積(ha)	244.0	132.6	65.0	22.5	35%	利用+切捨	309
	材積(m3)	8,700	15,903	2,400	3,548	148%		11,100
備考								

H24年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 633 円/m3

施業集約化の状況

- ・ 所有形態が大きい事業地から優先して行っていたが、森林経営計画樹立に伴い地域単位の集約化に努めました。
- ・ 作業道＝集約化ですので作業道を先行させた集約を進めたいと考えます。

施業プランの活用状況

- ・ 提案書の項目(木材納入先等)を詳細に改良し誤差が少ない様式に変更し活用しました。
- ・ 従来、本精算までに時間がかかりすぎていた事を受け、プランの様式を変更すると共に木材売上げが確定後80%の概算金を所有者へお支払いするよう努めました。

施業プランナーの養成状況

- ・ 講習会により1名のプランナーを養成した。(H25年3月現在 計6名)
- ・ H25年も1名のプランナーを養成予定ではあるが、現場経験を積んで将来の目標林型を見据えプランニングできる人材を養成したい。

作業道の状況

- ・ 木材搬出する上で路面のキャタピラの凹み部分を修復することなく現場を終了した箇所があり雪解け後巡視してみると予想通り路面水の排水が機能していなかった。(修理指示)
- ・ 巡視の結果凍み崩れにより通行出来ない箇所が数箇所見られた、施工する上で切り取り高をできるだけ低くおさえ、土壌に応じて勾配等の選定により安全で丈夫な作業道の開設に努めたい。
- ・ 昨年実施した濁度調査を参考に巡視時には目視ではあるが作業道からの土砂の流出のおそれがある場合は関係路線の巡視を行った。



行き場のない路面水



凍み崩れ(車輛通行不能)

### 作業システムの状況 H24木材生産性 4.0m<sup>3</sup>/人・日(3,548m<sup>3</sup>/887人)

- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(グラップル0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・ 作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)
- ・ 既設作業道→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)
- ・ 既設作業道→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)

### 取り組んだ内容

- ・ 森プロ最終年となり森林の状況も手遅れ林分手前の森林を手がける状況が増えてきた。木材の価格もさらに下がり補助金ありきでコスト的に合わない低質材でも搬出しました。森林自体は良くはなりましたが所有者への還元額をしてみるとH24より大幅に落ち込みました。
- ・ 今まではイワフジのプロセッサ・ハーベスタであったが、ケスラー製ハーベスタを導入した。検尺の精度、造材スピード性能は高い、グラップル機能は低いので作業システムを考え対応している。



手遅れ林分手前のスギ実施状況



導入したケスラー製ハーベスタ

### その他

- ・ 高山市文化芸術祭イベントとして10月20日『森森体験隊』の開催  
11月24日『美しい森林づくりin宇津江』、2月24日『森林づくりフォーラム』へ参加しました。



森森体験隊の活動風景



美しい森林づくりin宇津江

- ・ 7月26日 小浜市林業振興会 視察
- ・ 7月27日 飛騨高山森林組合役員 視察
- ・ 10月3日 高山市森づくり委員会 視察
- ・ 12月15日 ひだ未来の森づくりネットワーク 視察



### 融雪後の森林巡回結果について

- ・ 巡視した結果、凍み崩れによる崩土が見られた(崩土除去が必要)
- ・ 盛土部に亀裂があり崩土と共に至急修理を行った。
- ・ H20～H24間伐実施箇所について目立った雪害もなく健全な森林づくりができていたことを確認した。

森プロの成果 昨年に引き続き同様の成果が得られた。

#### 森林組合と森林組合員との関係

- ・ 予算上理由として森林整備を中心に行った結果作業道が単年度計画の17%しか実行できなかった。しかし全体としては計画の25,000mに対し26,157m実施でき所有者からは大変喜ばれ、次々と作業道に関しての要望が出されている状況ができた。(作業道＝集約化)

#### 森林組合について

- ・ 従来であれば保育間伐を行う森林ではあるが、保育間伐の補助金が無くなり無理にでも利用間伐をせざるをえない現場では言うまでもなく機械代など大きく費用がかかり、追い打ちをかけるがごとく、木材価格のさらなる下落により大きな赤字を出す現場が見られた。
- ・ 経営計画団地の作成に取り組んだ。H24年度は45団地(4,447ha)の計画を樹立した。
- ・ 古い修理費用のかかる高性能林業機械について長期レンタルの契約で更新をはかった。

#### 森林組合と飛騨農林事務所等との関係

- ・ 林業の制度改正に沿った指導を受けながら、環境に配慮した低コストの路網の設置となった。

#### JV構成員について

H24年度の大部分は直営による作業員で間伐を実施する状況となった。協力事業者については森プロ団地での経験を生かし他地域で活躍し間伐を進めました。作業道をH23年までに先回り開設したこともあり単年度としては作業延長が減少しました。

#### 今後の課題

- ・ 経営計画を進めるうえで、先行したいのが作業道となるが、補助金ありきで計画がなされている現状、それに頼らず全体的な視野で採算をあわせる作業システムを構築し無ければならない。
- ・ 高性能林業機械の能力を最大限に生かせる作業システムが組めるようプランナーの増員またさらなる技術、知識の向上に努めたい。
- ・ 国産材自給率50パーセントを目差す日本の力となれるよう、森プロ団地での取り組みの失敗、成功の経験を生かし他地域へ第2、第3の団地として展開して行かなければならない。